

琵琶湖

(びわこ)

位置：北緯35度15分、東経136度05分／標高85.6m／面積：65,984ha／湿地のタイプ：淡水湖、低層湿原／保護の制度：国定公園特別地域／所在地：滋賀県大津市ほか9市／登録：1993年6月／国際登録基準：1、2、3、5、7／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：淡水湖、低層湿原



ヨシの刈り取り

湿地の概要：

琵琶湖は、日本のほぼ中央に位置する日本最大の淡水湖である。周囲235km、面積6万6,926ヘクタール。水深は平均41.2m。総貯水量は275億トンで、近畿地方1,450万人の生活を支えている。

滋賀県は周囲をぐるりと山に囲まれ、その全域から大小460本の河川が琵琶湖に流れ込み、流出河川は南西部の瀬田川だけで、京都、大阪をへて淀川となって大阪湾へ注いでいる。

琵琶湖の周りには、河川や水路で琵琶湖とつながった内湖と呼ばれる付属の小さな湖沼がいくつかあり、現存する最大の内湖である西之湖(にしこの、382ヘクタール)が、2008年10月に拡大登録された。

固有の生物種：

琵琶湖は、約400万年前にできたといわれる古代湖で、多様な自然環境に富み、1,700種以上の水生動植物が報告されている。琵琶湖の固有種も多く、魚類ではホンモロコ・ビワマス・ビワコオオナマズなど17種、淡水貝類ではセタジミ・イケチヨウガイなど約30種が固有種である。ガンカモ類の重要な越冬地でもある。

湖と人と文化：

琵琶湖は豊富な水源、舟運、漁場、観光、そして心のよりどころとして、長年にわた

って人々の生活と文化を支えてきた。淡水漁業が盛んで、伝統的なコアユ漁やふなずしで知られるニゴロブナ漁にくわえ、稚アユや淡水真珠の養殖も行われている。

西之湖周辺には全国でも有数規模のヨシ群落があり、豊かな植生が認められる。

水資源利用の見直し：

高度経済成長に伴い水質汚濁、富栄養化、ヨシ群落の消失が進行し、琵琶湖の環境は深刻な問題となった。

滋賀県は、環境・水質を改善・再生させるため、琵琶湖富栄養化防止条例やヨシ群落保全条例、自然公園法など様々な法的措置をとってきた。1970年代後半には、中性洗剤の使用を減らす「石けん運動」を市民が提唱するなど、保全への住民参加の歴史も長い。

2021年時点では、2030年に向けた琵琶湖版SDGsである「マザーレイクゴールズ(MLGs)アジェンダ」の策定を進めている。**【ヨシ】** 高さ1~3mになる大形の多年草。葉は下垂し、幅2~4cm。世界の温帯から寒帯に分布し、湿原や河川、湖沼などで群落をつくる。水田とならんで、日本の典型的な水辺景観の構成要素となっている。

ヨシ群落は水質浄化や湖岸保護の機能を持ち、植栽が行われている。丈夫な葉や茎を利用して、よしずやヨシ屋根の建



南西の瀬田川方面から見た琵琶湖

材として伝統的に利用されている。

●関係自治体

滋賀県自然環境保全課

Tel: 077-528-3483

